

道徳科研究部 令和2年度のまとめ

① 研修会の実施状況

回	期日	会 場	研 修 内 容	参加人数
1	6・5 ↓ <u>中止</u>	浜北文化センター	○研究テーマ「自分らしさを大切にし、ともによりよく生きる子供を育む道徳教育～考え、議論する 道徳科の授業を核に～」に基づいた研究の視点の確認及び事業計画提案 ○講師 浜松市教育委員会 指導主事 武田 伸江 氏による講話	
2	8・6 ↓ <u>中止</u>	浜松市教育会館	○実践発表・演習等 ○講師 愛知県あま市立七宝小学校 教諭 鈴木賢一 氏 による講話	
3	11・11	気賀小学校	※研究テーマに基づいた研究授業（城北小、芳川小、上阿多古小、雄踏中）は <u>中止</u> ○講話「道徳科における指導と評価の一体化」 講師 浜松市教育委員会 指導主事 武田 伸江 氏	149人

② 研究部の研究内容

ア 本年度の研究目標

「自分らしさを大切にし、ともによりよく生きる子供を育む道徳教育～考え、議論する道徳科の授業を核に～」

このテーマは、「特別の教科 道徳」を道徳教育の要と位置づけ、全ての教育活動と関連づけながらよりよい生き方を学び、未来の自分の生き方につなげていく子供を育てることを意味している。小学校では「自己の生き方」、中学校では「人間としての生き方」を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていくことを目指す。

道徳科の時間を通して道徳的価値について理解し、自分との関わりで道徳的価値を捉えることによって自己理解を深め、自分なりに道徳的価値に対する課題などを持てるようにしていきたい。そのために、多面的・多角的な見方・考え方ができるような授業の工夫を講じること、道徳科の授業を要として、全教育活動を通じて行う道徳教育の充実を図ること、家庭や地域社会と効果的な連携を図っていくことなどを研究の視点とし、研修を深めていく。自己を見つめ、将来への夢や希望が持てるような道徳科の授業をすれば、児童生徒らは目標に向かって自分の未来を切り拓き、たくましく生きていくものと思われる。

イ 研究内容

(ア) 第1回研修会・・・中止

(イ) 第2回研修会・・・中止

(ウ) 第3回研修会

「道徳科における指導と評価の一体化」と題して、浜松市教育委員会武田指導主事に講話をいただいた。何を評価するのかを考え、そのような評価ができる授業を目指すことが大切であることを分かりやすく教えていただいた。また、講義のポイントと合わせて、自校の実践や指導案を見直す方法についても知ることができた。

○ 道徳科の目標と評価

道徳科では、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことが目標とされているが、評価においては、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多角的・多面的に考え、自己の生き方についての考えを深めていたか、子供たちの学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価していく。

○ 指導と評価の一体化

子供たち一人一人が自己との関わりの中で、多面的・多角的に考えることができる授業づくりを工夫していくことで、子供たちの学習状況や成長の様子を評価できる。

○ 道徳教育と道徳科

道徳教育は道徳科の授業だけで行うものではなく、教育活動全体で行うものである。子供たちの行為を見取り、直接的な指導を含めて行うのが道徳教育であり、道徳科では、行為の動機となる心に働きかけていくことが求められる。



講話をする武田指導主事

○ 指導案を見直す視点

- ・ 問題意識を持たせることのできる手立てがあるか。
- ・ 読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始していないか。
- ・ 望ましいと分かっていることを言わせたり、書かせたりしていないか。
- ・ 実体験を想起し、実感を伴って考えさせる手立てがあるか。
- ・ 複数の振り返りをイメージして授業できたか。
- ・ 「意識が高まったか」「意欲が育ったか」等ではなく、学習活動について「自己との関わりで深く考える子供の姿」を評価しようとしているか。

③ 研究の成果と課題

今年度は、1回のみ研修会であったが、武田指導主事の講話から、道徳科の授業改善や評価について学ぶことができた。「子供たちが、自己との関わりで、多面的・多角的に考えられるような手立てを考え、子供たちのそういった姿を評価する」「ねらいは一つでも授業の落としどころは子供の数だけある」ことなど、先生方に新しい気付きや再発見があった。

また、講話を基に自校の道徳科の授業や指導案を振り返る機会も与えられ、有意義な時間であった。今後も、部員相互の意見交換や情報交換を積極的に行い、より一層、研修内容を充実させていきたいと考える。